

水稻栽培における化学肥料使用量低減技術の実証

農場の概要

- ・ 地域 (川越市小ヶ谷地区)
- ・ 対象作物 水稻

導入した資材等

- ・ 米ぬかペレット
- ・ 菜の花 (緑肥)

導入の目的・ねらい

緑肥および米ぬかペレットを活用することで、化学肥料の削減を試みる。

試験概要

- ・ 品種：彩のかがやき
- ・ 田植え日：5/10
- ・ 収穫日：9/27 (米ぬか区)、10/3 (対照区)
- ・ 対照区：基肥 なし
追肥 化成肥料 (14-14-14) 40kg/10a
- 米ぬか区：田植前 緑肥 (菜の花 播種量3kg/10a)
追肥 米ぬかペレット 120kg/10a



米ぬかペレット生成の様子

結果概要

- ・米ぬか区の生育は対照区と同等に推移した。
(草丈：対照区 96.1cm、米ぬか区 94.8cm)
(穂数：対照区 24本/株、米ぬか区 21本/株)
- ・収量は、対照区の480kg/10aに対し450kg/10aであった。
- ・有機肥料を活用しても、化成肥料と同等の生育・収量を得られることが分かった。
- ・令和5年に導入したペレット化機械の減価償却費を含めると資材のコストは対照区と比較して約2倍に増加した。
(対照区: ¥19,540/10a、米ぬか区: ¥40,760/10a)
- ・対照区に比べ、資材コストが増加し、収量も若干下がるが、付加価値販売（単価100円/kg増）により、10aあたりの収支は約15,000円増となった。
- ・ペレット化機械の償却完了後は米ぬか区のコストが¥10,160/10a となり、長期的にはコスト削減も期待できる。

生産者コメント

有機栽培である分、除草などのほ場管理は大変だが、減農薬米としての需要は高く、通常の米と比較して付加価値を付けて高値で販売することができた。

問合せ先

川越農林振興センター

電話 049-242-1804



米ぬかペレット



すきこみ前の菜の花